

学 校 名	聖心ウルスラ学園高等学校		
活動・行事名	ハンディキャップ事前講話と体験学習	対 象	3年B～Gの生徒 参加者 173名
活動・行事のねらい	本校の教育目標である“愛と感謝と犠牲奉仕の精神”に基づいて、生徒が障害者の事前講話を聞き、自らハンディキャップ体験をすることによって障害者や助けを必要とする人々への思いやりや行動ができ、今の自分に感謝できる生徒を育むことを目指している。		
活動までの準備や事前指導	授業を通して人の助けを必要とする幼児や老人・障害を持つ人たちがいることを教え、実際に障害を持つ方に事前講話を依頼して聞かせ、講話の感想文を書かせた。その後、ハンディキャップ体験（シニア体験、車椅子、アイマスク体験等）に当たっての講義をする。車椅子は社会福祉施設より借用する。		

活 動 の 内 容

1. ハンディキャップ講話

※ 日時・場所：平成18年1月16日（月） 14：20～15：10 （於 本校 体育館）

※ 参加者数：173名（他 教諭 7 名参加）

※ 内 容：講師 延岡市ボランティア協会所属 山内文代 氏

講師が自分の障害者になった経緯を話された。聴講者の年齢で障害を担い、その事を通して人の優しさや感謝することが多かったこと、生きることに努力の要る事を話された。

2. ハンディキャップ体験

※ 日時・場所：平成18年1月26日（木）－1～2限 3年B・C組、3～4限 3年D・E組
平成18年1月27日（金）－1～2限 3年F・G組

車 椅 子：校舎外回り

アイマスク：校舎外回りとグランド昇降階段

シニア体験：視聴覚室と2階フロアー往復

※ 参加者数：173名（指導教諭2日間共 10名参加）

※ 内 容：1. 体験内容の説明。（車椅子：玉木、アイマスク：苅岐、シニア体験：馬越脇）

2. ハンディキャップ体験グループに分け、体験場所に移動して実践活動する。

3. 体験グループは、ペアで2種目を交代して体験する。

①グループ：アイマスク・車椅子（28組）

②グループ：車椅子・シニア体験（30組）

③グループ：シニア体験・アイマスク（29組）

4. 体験学習の感想を書く。

成 果 と 課 題

ハンディキャップ体験をする前に障害者の方の講話を聞かせた。生徒達に障害とは、生まれついでの人もいるけど、生徒達のように健康である人達が予期せぬ事態により招いてしまう事もあるということを講師の話を通じて知り、その上で、体験をしたので取り組み方が真剣であった。車椅子や、アイマスク体験は、恐怖感と不安感を身をもって体感したようにある。が、自分達は体験終了でそれを解除できるので、体験による実感を持続できる事を忘れることがないように指導したい。

